

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービス くぬぎの森		令和8年 1月15日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		適切である	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切である	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		整理整頓がしやすいように物の場所を絵カード等で示したりしている 来所して活動に入るまでの流れをパターン化している	教室が2Fでエレベーターがないので車椅子利用が不利になる点
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		空気・室温・明るさ・音・プライバシー・用具の衛生管理に努めている	山に囲まれているため虫などが入りやすい
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		視覚過敏、聴覚花瓶に対応出来る空間づくりを	クールダウンの空間に他のこどもが入りたがる クールダウンの空間が数カ所必要
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		事業所内でミーティング等を行いすべてのスタッフへの周知をしている 共通のLINEを使用	ミーティング等に全員参加が難しい場合がある
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		アンケート結果より職員間のカンファレンスで改善や質の高いサービスの提供について話し合いをしている	保護者と細かい連携が取れるようにすると同時に利用者本人の意向にも配慮する
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間のカンファレンスで改善や質の高いサービスの提供について話し合いをしている	全てが改善につながっていない事もある
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者委員会の設置がない
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		積極的に参加するようにしている 研修で得た内容をスタッフ内で共有したりする	研修に参加するとスタッフ不足になる
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPに記載されている	もっと公表できるものを開拓したい
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		ニーズを聞きSSTなどに個別課題・集団活動を踏まえて作成している	ニーズ課題が変化した場合でもアセスメントでくみ取れない事がある 他の支援者からの情報収集も必要
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		スタッフの認識や解釈が食い違わないように配慮している	支援計画がマンネリ化傾向になる
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		適切に行われている	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日常場面より能力やスキル興味関心を把握している	その場合にいらないスタッフとの共有が難しい点がある
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援及び家族支援は定期的に支援内容の確認を行うようにしている	地域連携・地域支援の設定は難しいときがある
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		利用者・保護者のニーズを踏まえてチームで立案し活動目標を設定している	活動目標の設定を短期で達成できるものを増やしていく

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用者のニーズを取り入れ活動内容を工夫している	行事（ハロウィン・クリスマス等）は固定化している 時間的な制限がある
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		適切に行われている	集団活動の参加が難しい利用者へ対応
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前にMTして活動内容と狙いを立て、スタッフの役割確認をしている	その場合に居られないスタッフもいる
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終了後にMTし反省点の振り替えを行い利用者への対応や状況を共有している	その場に参加できないスタッフがいる
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援の記録は利用後、保護者に確認してもらい内容に改善がある場合は支援に対する情報共有を図り改善に役立てている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		適切に行われている	達成目標をスモールステップのものにする
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		適切に行われている	地域交流の機会を増やしていきたい
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択が出来る環境づくりをしている	自己決定ができて、他者とトラブルになることもある 自己決定が難しい利用者に対してこちらが強制してしまうことがある
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		個別対応の職員で最もふさわしい者が参画している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		保育教育との連携がない
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者から情報共有してもらっている	学校によっては協力的でない場合がある 学校の下校時間が急に変更になって困る
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談員より情報共有してもらっている 相談員がいない場合、事業所より情報共有してもらっている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		適切に行われている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		必要となる場合、随時相談など出来る体制を取っている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域他のこどもと活動する機会があるか。		○		地域の公園など出会うと一緒に活動する事も あるが、機会は少ない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	情報共有してもらっている	都合が合えば参加している
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳及びメール・ライン・電話等で連絡を いただいている	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		情報提供は行っている	参加される方は少ない	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約書時等に適切に行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別面談等で確認する機会を設けている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書作成後ご説明して同意を得ている わかりやすい言葉を使って説明するようにしている	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		適切に行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		保護者会など設置はない 保護者同士の連携を支援できる場合は設けていないが、連携を取りたい要望があれば対応している
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情等の窓口を明確にして対応している	直接声を聞いて対応したいが会えなかったりでメールなどになってしまう事がある
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPに顔出し等、記載する許可を得ている	定期的に記載するのが難しいこともある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		適切に行っている	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		適切に行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		くぬぎファーム（畑）などで地域の方が参加されることが多い	特にイベントは開催されていない
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		適切に行っている	訓練等が苦手でパニックになる利用者もいる
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		適切に行っている	予告なしで実施しているのでパニックになるお子さんがいるので、その場合の対応もしっかり検討する必要がある
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		一人ひとりの対応方法・ツールを用意している スタッフ全員に対応方法を周知している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		適切に行っている	変更があった場合の連絡が遅れることもある
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		適切に行っている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画の取組内容を周知している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットのMT・勉強会や事例検証をして職員間で協議している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		日頃から言葉かけについても意識するようにしている	虐待防止・身体拘束等の講習会があまりないががあれば参加している
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束等、保護者に説明し同意書を交わしている		